



議員による政策立案

「夢」への挑戦！

シンプルで分かりやすい

「子育て支援奨励金」の創設

### 平成28年12月議会 西沢こうへい 提案報告

#### 日本一の子育て支援に向けて

**10万円支給**

保護者の方の  
想いは多様で、「塾に行かせてあげたい」、「スポーツをさせてあげたい」、「いろんな経験をさせてあげたい」、などの想いがいっぱいあります。そんな願いの一つ一つを行政サービスすることは財政的に、とうてい無理なことです。しかし、少しでも子育ての金銭的な負担を支援することは、吉野町でも可能ではないでしょうか。義務教育である小中学校でも、給食費や修学旅行の費用、それ以外にも相当の費用が必要です。高校生ともなれば授業料や通学費などさらに多くの費用が必要となり、保護者の方々のご負担は相当なものになります。

そこで「子育て日本一」を目指すために、0才～18才までのお子様一人に対し、年間10万円の「子育て支援奨励金」を支給するシンプルで分かりやすい子育て支援制度の創設を提案します。

吉野町における18歳以下の子ども人口は約680人弱であり予算的には6,800万円の確保が必要です。金額的に見ると大変な額ですが吉野町の一般会計予算約60億円に占める割合は1%余りです。

私が吉野町議会の構成員となったときの議員定数は16名でした。先日、議員定数をさらに1名削減し10名としまし

次回は、「空き家の再生」について提案いたします。

た。6名減るといことは、1名に約600万円かかるとし、年間約3,600万円もの財源が確保できることとなります。更なる財源の確保を行うには、公共工事や各種事業の入札の競争性を高めることや、補助金をもっと精査して不要な補助金のカットすることも必要です。私たち議員の定数削減した費用も「子育て支援奨励金」に当て、子どもたちに精一杯の支援をしていただきたい。

子どもたちは吉野町の宝です。その子どもたちが成人し、またその人たちが子育て世代となったとき、きっと「吉野町で育って良かった」、「やっぱり吉野町が一番いい。」と思ってもらえれば、たとえその子どもたちが遠く離れていてもその子どもたちの心の中に、吉野の桜が舞、吉野杉の美しい山々の風景がよみがえるに違いありません。



#### 《町長の回答》

総額的に申しまして、そんなに無理な金額でもないという気はしています。

財源的にも、もっ少し「ふるさと納税」を増やせないか、とか考えながら一般質問を聞いていました。町としても通学費や給食費等の補助ができないかと、いろいろ検討はしています。

次の予算にどこまで反映できるかは難しいものがございますが、議員さんの意見も参考にしながら考えていきたいと思っております。